



平成 17 年度 第 9 回 (2005 年 11 月度) 理事会議事録

日 時	平成 17 年 11 月 19 日(土) 9 時 30 分～12 時 35 分
場 所	新赤坂事務所：港区赤坂 5 丁目 1 3 番—6 212 号
出席者	理事 : 植村(議長)、富田、土屋、神野、関口、内田、泉澤、廣瀬(書記) 監事 : 高柳、大久保 事務局 : 鹿野 (順不同、敬称略) (計 11 名)
欠席者	理事(委任状有) : 竹政・岡(以上廣瀬に委任)、山内・上田(以上植村に委任)、 西村(富田に委任)、宮川(関口に委任) 理事(委任状無) : 岡崎 (順不同、敬称略)
議 題	特別事項 審議事項 1 JSPE 紹介パンフレットの改定(関口) 2 新入会員承認(神野) 3 JPEC 社員募集(内田) ・ HP による会員向け求職サービスについては、竹政理事欠席のため次回に延期。 報告事項 1 財政改善活動 Task Forces 進捗報告(財政改善 TF メンバー) 2 NPO 法人理事・監事の義務と責任(参考)(富田) 3 オレゴン州による、日本での最後の FE 試験実施報告(内田) 4 来年以降の日本での FE 試験実施状況(NCEES との会議内容)(内田)(廣瀬) 5 日本 PE・FE 試験協議会の今後と役員改選(内田) 6 鬼金 CPD2005 プロジェクト上期 Status Report(大久保) 7 第 68 回 CPD セミナーについて(植村) 8 WPR 参加報告(神野) 9 会員サービス(神野) 10 高知工科大学特別講義報告(廣瀬) ・ MOT 研究会立ち上げ推進報告については、竹政理事欠席のため次回に延期。 ・ HP による求職情報サービスについては、竹政理事欠席のため次回に延期。
添付資料	添付 1. 財政改善活動 Task Force 進捗報告(富田) 添付 2. 財政改善活動 Task Force 第 1 回ミーティング議事録(富田) 添付 3. 財政改善活動 Task Force 第 2 回ミーティング議事録(富田) 添付 4. NPO 法人理事・監事の義務と責任(参考)(富田) 添付 5. 11 年間の FE 試験統計データ(内田) 添付 6. 2005 October FE 試験・ボランティア・リスト(内田) 添付 7. WPR 参加報告(神野) 添付 8. 会員サービス(神野) 添付 9. OSBEELS 歓迎会開催報告(上田) 資料のみ添付



議事内容	アクション
<p>● 審議事項</p> <p>1. JSPE 紹介パンフレットの改定 (関口) 下記について、パンフレットの内容を見直す。 ・ CPD セミナーの活動内容を新しいものに見直し ・ 専門紙・新聞への掲載、大学での講演について、具体名を削除 パンフレットは、定期的に内容を見直し(改訂した日付を入れる)、各理事にPDFファイルで送付する。各理事は、必要な時に印刷して使用する。また、JSPE の各行事での配布用に、200部印刷しておく。</p> <p>2. 新入会員の承認 (神野) ・ 新入会員の承認 FE-0291 橋本篤氏、AF-0024 沖晃司氏 ・ 新入会員の承認 (但し、入金条件付き) FE-0290 山内亜希子氏 ・ PE-0049 大根圭二氏、FE-0137 河井利行氏、FE-0140 西脇眞二氏 3名の退会申請があった。 ・ 会員総数： 理事会前 PE 118名 FE 211名 AF 14名 ST 2名 合計 345名 理事会後 PE 117名 FE 210名 AF 15名 ST 2名 合計 344名</p> <p>3. JPEC 社員募集 (内田) 報告事項 5 項の JPEC 内田会長からの要請に基づき理事の採決を取ったところ、JSPE 会員の中から JPEC 社員の募集をすることが満場一致で承認され、HP 上でその募集をすることが決まった。</p> <p>● 報告事項</p> <p>1. 財政改善Task Force活動進捗報告 (財政改善TFメンバー) (添付 1、2、3) 10月度理事会以降、1ヶ月間の財政改善Task Force活動の報告があった。 ・ 会費未集金に関する報告・・・11月8日に会費未払いの会員に督促状を発送した。11月18日現在で督促分の13.8%入金、11月30日締切りとしている。 ・ 助成金獲得努力に関する報告・・・助成金募集中のNPO助成団体2ヶ所にコンタクトした。助成金獲得には「一見のアプローチではない継続的なコンタクトが必要」と「しっかりとした助成対象プロジェクトの準備が必要」である。 ・ 賛助会員(企業会員)を募る検討を行った。賛助会費を得ることはもとよりであるが、宿泊施設や会議施設を提供してもらう形態もあるのではないかと、との意見があった。 ・ 企業からの打診“JSPEのHPや出版物に広告を掲載したい”の受理報告があった。渉外部会にてコンタクトしてもらうことになった。</p> <p>2. NPO法人理事・監事の義務と責任(参考) (冨田) (添付 4) インターネット検索ベースでのNPO法人理事・監事の義務と責任のあり方の紹介があった。JSPEは、無借金運営に徹することを改めて確認した。</p> <p>3. オレゴン州による、日本での最後のFE試験実施報告 (内田) (添付 5、6) 10月30日(日) 東京・文京区 中央大学理工学部・後楽園キャンパスで、予定通り実施され、極めて平穏無事にオレゴン試験委員会との最後のFE試験を終了することが出来た。受験者数143名、欠席者31名。試験実施側は、オレゴンから2名、JSPE・JPECのボランティア27名、他に、特別にNCEESから3名が、FE試験の状況の視察に加わった。添付に、過去23回のFE試験の統計データ、及び、今回のFE試験ボランティア参加者リストを示す。</p>	<p>関口理事</p> <p>上田理事</p>



議事内容	アクション
<p>4. 来年以降の日本でのFE試験実施状況 (NCEESとの会議内容) (内田) (廣瀬)</p> <p><u>JPEC内田会長報告:</u> オレゴン州政府試験委員会 (OSBEELS) の 2005-1-11 付レターにおいて、日本で実施する FE 試験は、本年 10 月 30 日の試験が最後になることを通告してきた。この理由は、全米試験協議会 (NCEES) が米国各州に、試験実施時の不正 (例、試験問題盗難やスキャナ付計算機の使用など) に対する規制強化と indemnification (補償、弁償) をもとめてきたことに対し、OSBEELS がその対策として、NCEES の直轄下にある ELSEES を試験運営機関として採用することを決めたからである。オレゴン州では、2006 年 4 月からその実施に移る。このため、日本での FE 試験実施を今年限りにしたのである。しかし、オレゴン州が NCEES に対して日本での FE 試験継続を依頼したところから、今回、NCEES の日本訪問、JPEC との会議への運びとなったのである。NCEES は、日本で実施されている FE 試験の状況を視察しその実情を把握する目的もあり、NCEES 代表者 3 名が日本を訪問した。会議は、Draft Agreement (事前に送付されていた) を主題に進められた。「Agreement には、試験問題の紛失等の各種不正に対する責任・賠償条項が記載されており、財政上十分なバックアップを持たない JPEC にとって、これにサインすることは実際上ほとんど不可能である。」と会議の席上で述べた。これに対して NCEES も、「JPEC にとってその条項を受け入れることは困難である事は予測していた。再度、NCEES の方で、Agreement を作成し直す。」との返答があった。この NCEES との会議を通して、来年 10 月の FE 試験の実施が実現性を帯びてきた。しかしながら、オレゴン州と一緒にやってきた今までの JPEC の運営とは、かなり変わる事も予想される。特に、財政的なバックアップがない現在、JPEC の運営の継続は、財政面での責任を果たすことは非常に困難である。しかしながら、2006 年 10 月に、東京での FE 試験を実施する方向で、NCEES はその準備を進めている状況であり、修正された Agreement が送られてくる予定である。</p> <p><u>廣瀬報告:</u> JSPEにとって、FE試験の継続は重要である。JSPEの会員数を増やすためにも、そしてJSPEバリューの1つである「海外で通用するエンジニア」育成のためにもNCEESの運営のもとで新たにFE試験を始めたい。以下に、NCEESとの会議で受けた印象と、NCEESの News Letter “EXCHANGE” からNCEESの最近の動きを要約する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ NCEESの戦略: <ul style="list-style-type: none"> ① PEシステムを世界に広めたい (OSBEELSの戦略とは違う)。 ② 頭打ち、減少傾向にあるFE/PE受験者を増やし、財政向上を目指したい。 ・ NCEESの訪問目的: <ul style="list-style-type: none"> ① 日本のFE試験運営状況の調査。 ② 日本政府のSanctioned licensing body進捗状況の調査。 ・ NCEESのBoard決定事項: <ul style="list-style-type: none"> ① 暫定的に2006年秋から2008年秋まで日本でのFE試験を提供する。 ② 将来的にPE試験の実施も視野に入れる。 ③ AgreementにはLiability条項を除く。 ④ 将来的に日本政府のSanctioned licensing body下での試験運営を期待する。 ・ NCEES President Statement: (先のAnnual MeetingでのSpeech) <ul style="list-style-type: none"> ① 2007年に資格制度100年の節目を迎えるに当たって、「市民の安全、健康、福祉の点から、資格制度の必要性並びに価値を公共に訴える。 ② 市民への訴えは、我々 (NCEES) がまさに政府に必要な一部であることを、国会議員へ示す助けになる。 ・ “EXCHANGE” には、他に「ABETや一般の声を聞いて試験制度の見直しをしている」こと、「外国のPEとのEquivalency」などの重要な情報が詰まっているので各理事、監事も一読をしてほしい。 	



議事内容	アクション
<p>5. 日本PE・FE試験協議会の今後と役員改選 (内田) FE試験がオレゴン管理下で約11年続けられて来た。その間、約5300人の技術者がFE試験を受験し、約3400人のEITが誕生した。来年からOSBEELSは、FE試験を実施せず、代わりに全米試験協議会 (NCEES) の管理下でELSEESが実施することで話し合いが進められている。第4項で述べたように、FE試験の運営がOSBEELSからNCEESに委譲されるのを機に、JPECとしても、役員を一新し新体制の元で新しいFE試験実施に向けて活動を行っていきたいので、JSPE会員の中からJPECの社員を募集したい、との要請が内田会長よりあった (本件、審議事項 3に記載したので、参照)。JPECの役員を一新することについては、JPECの運営そのものに混乱を招く可能性が出るので、50%ぐらいいは理事に残るべきであるとの意見があった。</p> <p>6. 鬼金CPD2005プロジェクト上期 Status Report (大久保) 2005年度の鬼金CPDセミナーの収支報告がされた。収入は予算を上回っており、収支もプラスとなっている。来年の鬼金CPDセミナーは、受講者の減少に備え、新PMPを講師陣に加えたり、外販の拡大などを折り込んで事業計画、予算編成を行う。 (資料添付無し)</p> <p>7. 第68回CPDセミナーについて (植村) 11月26日 (土)、JSPEでは初めての見学会を含めたセミナーを開催する。米系物流会社施設AMB大田ディストリビューションセンターを見学する。</p> <p>8. WPR参加報告 (神野) (添付7) 11月4日、5日にNSPE米国西海岸地区PE年次会議 (WPR) に出席した。 11月4日は、NSPEと全米土木学会、電気学会などのJoint Meetingに参加した。 11月5日は、WPRにてJSPEの活動報告とInternational PEの呼びかけを行った。 又、11月4日のBanquetでNSPE会長 Mrs. Kathryn Grayに面会が出来た。日本のFE試験の2008年以降の継続が困難になっている事を説明した。</p> <p>9. 会員サービス (神野) (添付8) 会員サービスの一環で、会員の求めている情報を会員部会から発信することとした。例えば以下のような情報を提供する。 ・ AF/ST会員に対してはAFからPEになった会員の経験談や合格者の経験談。 ・ FE会員に対してはPE受験のQ&A。 ・ PE会員に対してはCPD情報やrenewal情報。</p> <p>10. 高知工科大学特別講義報告 (廣瀬) 11月8日、高知工科大学社会システム工学科2年生 (約60名) を対象に3時間の講義を実施した。この講義は4年間続いており、毎回FE試験やPE資格の有効性を訴えている。アンケート用紙を受け取り次第報告する。</p>	<p>神野理事</p> <p>廣瀬理事</p>

承認	
承認	
承認	
記録作成	廣瀬 仁志